

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	3月	11日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	西田	西野	宮本	
取材対象先	奈良市：聖光寺の木造阿弥陀如来立像				

所在地	奈良市鳴川町25番地				
所有者(取材 対応者)名	聖光寺 ***住職 (個人情報守秘)		連絡先 0742-22-4276		
			PCアドレス ***		
取材申込	申込先・行政名など：聖光寺(浄土宗)				
市町村 指定文化 財	彫刻 1 軀	木造阿弥陀如来立像=2013(平成25)年3月15日指定			
	建造物 棟	名称(指定年月日)			
文化財指定理 由	本像は鎌倉時代の優れた阿弥陀如来像で、本体は補修なしで当時のものがそのまま残っている。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器は備えている。町内で消火体制を整えており、有事の際は近くの音声館の倉庫に保管しているポンプ車で消火活動に当たることとしている。町内で年1回の防火訓練がある。	「ならまち」の中の道路は道幅が狭く消防車が入ることが困難なため、町内でポンプ車を備えるなど協力して防火対策を行っていることは素晴らしいと思った。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	特に大きな獣害はない。本堂の上を猫が走り、土やほこりが落ちてくることもある。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	本像は、2013(平成25)年に市指定文化財に指定された後、本体は現状保存の方針で光背・台座の補修を奈良国立博物館文化財保存修理所に依頼し、2014(平成26)年に補修が完了した【取材票(裏)の写真参照】。補修の際にレントゲンで仏像内部を撮影すると紙(30cm~40cm)が写っていたが、何が書かれているか不明。仏像内部の紙を取り出すには仏像を壊すしかないため、このまま保存することとしている。将来、大きな補修の必要性がある時に併せて紙を取り出せば内容が確認できる。タイムカプセルのようなものである。	

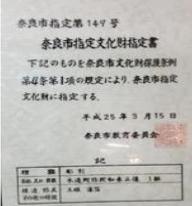
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

聖光寺のご本尊である阿弥陀如来立像は平安時代の作であるが、胸から下を補修するなど補修箇所が多いため文化財には指定されていない。それに比べ本像は鎌倉時代の作であるが、本体の補修はなくそのまま保存されていたため文化財として指定された。聖光寺には、ほかに地蔵菩薩半跏像、阿弥陀如来座像、祖師座像、如意輪観音菩薩座像などの仏像(お像の名称は聖光寺様のリーフレット参照)が安置されている。住職は、これら仏像を文化財としてではなく「仏さま」としてお祀りしお守りしていると仰っており、そのようなお考えが文化財としての保護にも繋がっていると思った。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	3月	11日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	西田	西野	宮本	
取材対象先	奈良市：聖光寺の木造阿弥陀如来立像				

《写真撮影許可済(修理記録写真を含む)》

文化財指定名 木造阿弥陀如来立像	
文化財 (正面写真)	光背の修理状況
	 <p>修理前 (聖光寺修理記録写真参照)</p>  <p>修理後</p>
本堂の外観と文化財指定書	台座の修理状況
 	 <p>修理前 (聖光寺修理記録写真参照)</p>  <p>修理後</p> <p>台座の花弁は元からあったものを前に持ってきた。修理後は三段から五段となった。</p>
文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域 (廃寺など) の歴史や特徴等
<p>聖光寺のご本尊は阿弥陀如来(平安時代)であるが、奈良市指定文化財の阿弥陀如来立像は向かって左の脇壇に安置されている。両手ともに第一、二指を捻り、左足を前に踏み出し、乗雲する蓮華座に立つ来迎阿弥陀仏である。衣文表現などは鎌倉時代中期の特色が顕著で宋代美術からの影響が指摘される。鎌倉時代の優れた阿弥陀如来像である(「奈良市指定文化財」HP参照)。説明板は見当たらなかった。</p>	<p>聖光寺は、古くは元興寺塔頭の一庵であったといわれる。1197(建久8)年に聖光上人が念仏道場としてここに草庵を結び、この時から浄土宗となった。1569(永禄12)年に応誉上人の代に堂宇を建立し聖光寺と号した。1653(承応2)年に伽藍が完成。1692(元禄5)年に鐘楼、梵鐘ができて今日に至っている。(聖光寺リーフレット参照)</p>